

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 大谷 純 |
| 学位の種類 | 医学博士 |
| 学位授与番号 | 乙 第 1811 号 |
| 学位授与の日付 | 昭和62年 9 月 30 日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） |
| 学位論文題目 | ラット腹腔肥満細胞の ^{45}Ca uptake およびヒスタミン遊離に関する研究 第 1 編：ラット腹腔肥満細胞の分離法並びに反応性の検討 第 2 編：各種抗アレルギー剤の抑制効果の検討 |
| 論文審査委員 | 教授 佐伯清美 教授 辻 孝夫 教授 太田善介 |

学位論文内容の要旨

肥満細胞からの化学伝達物質遊離の初期段階である、 Ca^{2+} 流入過程に対する各種抗アレルギー剤の影響を検索する目的で、ラット腹腔からの肥満細胞の分離方法、および分離した肥満細胞の ^{45}Ca uptake およびヒスタミン遊離に対する薬剤の抑制効果を検討した。BSA を用いた比重遠心法により、反応性に富んだ大量の肥満細胞が高い比率でラット腹腔より採取された。DSCG, tranilast, ketotifen, azelastine の各種抗アレルギー剤と Ca^{2+} 拮抗剤 nifedipine は、抗原刺激時の肥満細胞の ^{45}Ca uptake およびヒスタミン遊離に対して、濃度依存性の抑制効果を示した。DSCG と tranilast では長時間の前孵置あるいは薬剤の再添加により、有意の抑制効果の減弱や tachyphylaxis すなわち急速耐性獲得が観察された。また両薬剤間には cross tachyphylaxis が認められた。以上のごとく、かかる検索は、抗アレルギー剤の作用機序解明に有用であるのみならず、肥満細胞からの化学伝達物質遊離機序解明の一助と成り得る可能性が示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、肥満細胞からのアレルギー性および薬物誘発性ヒスタミン遊離の際の ^{45}Ca の取り込みと、それに対する抗アレルギー剤の抑制効果を研究したものである。アレルギー疾患の発生機序ならびに抗アレルギー剤の作用様式について重要な実験的知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。